

平成30年3月15日発行 鷹山宇一記念美術館友の会  
 〒 039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内 67-94 七戸町立鷹山宇一記念美術館内  
 TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860 e-mail info@takayamamuseum.jp http://www.takayamamuseum.jp/



鷹山宇一「比岸桜」1962年(紙・鉛筆、水彩)

「比岸桜」

二月に入ると母方の曾祖母は「雛人形」を出す日を暦で毎年確認していた。「神武以来、雛を飾る日は雨水と決まっている」と、慶心生まれは言う。七戸に移ってから、私も暦に印をつけ人形飾りをしていたが、「桃の花」が手に入らない大雪が降り続く年があった。

父のデッサンに「桃」があるのを思い出し探していると「白梅」も「比岸桜」も見つかった。

桜は花を咲き終わると、夏の間に花芽をつくり、その後深い眠りにつく。しかし、その眠りは冬の厳しい寒さによって醒めて開花の準備を始める。これを「休眠打破」と言う。厳寒という試練があるからこそ桜は美しく、険難の峰と対峙する強い力が桜を光輝かせる。

北国の人間は春の訪れが待ち遠しい。その想いが「梅」や「桃」でなく「桜」の春爛漫につながるのだろうか。

古来「花王」と称され日本の国花である桜。躊躇なく「比岸桜」を床飾りにして、赤い毛せんを床に敷き「内裏雛」を置いた。

館長 鷹山 ひばり

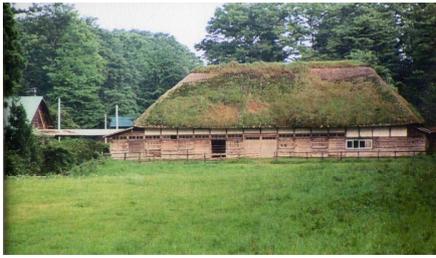
## 画集を携えて

### Part II

観光パンフレットを片手に町中を歩くことも楽しいが画集を携えての散策もまた楽しいものである。

鷹山画伯も歩いたであろうと勝手に想像しながら八幡岳の裾野を、春はフキノトウ探しに始まり、わらび等の山菜取り、夏には溪流釣り、秋にはキノコ採りを楽しみながら、四季折々の散策を楽しんでいる。

鷹山画伯の作品の中で一番好きな作品は「放牧地への道」(カラー図版No.2)であるが、残念ながら未だに本物を見たことはない。友の会から頂いた新画集を開いたとき「盛田牧場・南部曲家」、「妹肖像」とともにカラー図版の最初の頁を飾っていたのはとても嬉しいことだった。



旧盛田牧場・南部曲屋

左の写真は、平成11年頃に撮影した旧盛田牧場の南部曲屋、2段目の写真。真は厩舎から顔を覗かせていた馬ですが、この写真を見ながらモノクロ図版No.16の「馬」(油彩 第39回二科展出品)は、旧盛田牧場の厩舎

の馬をイメージして描いたのではないだろうか。勝手に想像を膨らませている。

鷹山画伯の画集、素描集を鑑賞しながら、昨年実現出来なかった「十和田湖奥入瀬子ノ口大瀧」、「八甲田」の山麓など、作品に描かれたと思われる故郷の景色を探しながら、待ちわびた春にはカメラと画集片手に近場の散策を再開しようと考えている。



旧盛田牧場・南部曲屋・馬小屋

## 求道の画家 岸田劉生と椿貞雄展

宮城県立美術館

中学校時代の美術教科書で見かけた、いつかは本物を見たいと思っていた絵画が三点ある。一点目は、鷹山宇一記念美術館二十周年記念特別展で見た高橋由一「鮭図」、二点目は、今回の岸田劉生「麗子像」、三点目は青木繁「海の幸」である。

教科書で見た麗子像が今回展示されている「童女図(麗子立像)」だったかどうかまでは記憶にはないが、初めて麗子像を見たとき、親ならば何故、子供らしく可愛らしい表情に描かなかったのかと疑問に思ったことを今でも

覚えている。麗子を立たせてかいたという「野童女」という作品は、正直いつて不気味な表情だと思った。

麗子像については、学芸員さんの可愛らしい絵では「絵の存在感」を出せなかったのではという説明を聞き、それもそうだと納得。野童女は、「中国元時代の画家、顔輝作とされる寒山図のグロテスクの味にヒントを得て描かれた」という図録の説明を読み、不気味な理由を納得し、「一連の「麗子像」に対する「何故」という疑問はめでたく解決した。

劉生が描いた最後の麗子像「麗子十六歳之像」は、成長した和服姿の娘らしい麗子像が描かれていたので何故か心安らいだ。

青木繁の「海の幸」は、2019年秋の開館を目指して準備を進めているという新しいブリジストン美術館の開館時期や展覧会の情報をネットで検索して訪問したいと今から楽しみにしている。



左:岸田劉生・童女図(麗子立像)(部分)  
右:椿貞夫・朝子像(部分)

## 「道東の四季―春―」 岩手県立美術館

昨年、東京都渋谷区神宮前にある「ヨンドル像」を訪ねたことがきっかけで野外彫刻に興味を持ち始め、以前から作品名等が気になっていた岩手県立美術館玄関前に佇んでいる女性像を2月中旬に訪ねた。

女性像は、彫刻家・舟越保武氏の「道東の四季―春―」という作品で、釧路市釧路川に架かる幣舞橋の改築に際して「道東の四季」をテーマに佐藤忠良、柳原義達、本郷新に女性像の制作を委嘱されたときのもので舟越保武は「春」を担当したそうです。

幣舞橋の像は、日本初の橋上彫刻といわれているそうなので是非とも見たいと思ったが遠すぎるので諦めた。海を越えることは諦めたが、ネットで検索したところ、佐藤忠良氏の「夏」という作品が宮城県立美術館の庭園に設置されているようなので、臨時休館中だった「佐藤忠良記念館」の開館を待つて、彫刻のあるまち仙台市をぶらつこうと計画している。



道東の四季 一春一

鷹山宇一記念美術館友の会

会員 照井壽一(八戸市)

七戸町立鷹山宇一記念美術館特別展

# 桜・さくら・花しょうぶ



— 成川美術館コレクション —

2018年4月7日(土) - 7月1日(日)



木村圭吾「神代桜」



石井了「老桜」



牧進「花道遙」

■主な出品作家  
松本勝・岡信孝・石本正・岡崎忠雄  
平松礼二・中野嘉之・那波多目功一  
吉田多最ほか(順不同)

本展では、28名の現代日本画家による44作品により、「桜」と「花菖蒲」の多彩な表現をご紹介します。花々で彩られた美術館で、一足早く素敵な春のひと時をお過ごしください。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

青森放送株式会社のご共催を頂き、4月7日(土)から特別展「桜・さくら・花しょうぶ」成川美術館コレクションを開催します。今日の日本画壇を代表する作家たちの収集で知られる箱根・芦ノ湖「成川美術館」コレクションより、「桜」、「花菖蒲(はなしょうぶ)」を主題とした作品を中心に、秀作を選び出し展覧いたします。

## 関連イベント

■三村三千代講演会  
6/23(土) 17時~18時  
講師・三村三千代氏(八戸学院大学短期大学部客員教授)

■鷹山美緒プチコンサート  
ソプラノ歌手・鷹山美緒氏によるコンサートです。展覧会に合わせた歌を披露していただく予定です。

## ~鷹山美緒プチコンサート~ スケジュール

開催日	時間
4月21日(土)	1回目13時~/2回目15時~
22日(日)	11時~
5月3日(木)	1回目13時~/2回目15時~
4日(金)	1回目11時~/2回目13時~/3回目15時~
5日(土)	1回目11時~/2回目13時~/3回目15時~

※6月は未定(詳しくは美術館までお問い合わせ下さい)

## 桜・さくら・花しょうぶ—成川美術館コレクション—

2018年4月7日(土)~7月1日(日)

会期中無休

入館時間/10:00~17:30(閉館18:00)

### ■入館料■

一般 850(650)円、高校・大学 400(320)円、小・中学生 200(160)円

※( )内は前売券、20名以上の団体、県民カレッジ受講者割引料金

※JAF会員は会員証ご提示で10%割引

※前売り券は、i.JTB チケット取り扱いのコンビニ各店にてお求めいただけます。i.JTB 商品番号⇒0248567



岡信孝「花菖蒲」

鷹山宇一記念美術館  
News & Report

平成30年度も皆様に喜んでいただけるような展覧会を予定しております。皆様のご来館を心よりお待ちしております。

■美術館スケジュール（予定）

※変更になる場合がございます。

桜・さくら・花しようぶ

（成川美術館コレクション）

4/7（土）～7/1（日）

今日の日本画壇を代表する作家たちの最高傑作の収集で知られる箱根・芦ノ湖「成川美術館」コレクションより「桜」、「花菖蒲（はなしようぶ）」を主題とした作品を中心に秀作を選んで紹介します。



松本零士展

7/14（土）～9/9（日）

漫画家・松本零士は、「宇宙戦艦ヤマト」、「銀河鉄道999」など、宇宙を舞台にしたSF作品を数多く手がけ、多くの人々に夢とロマンを与え続けています。本展覧会では、漫画家デビ

ューしてから現在に至るまでの足跡を年代順に資料や原画を交えて紹介します。

鷹山宇一と蝶

9/15（土）～11/4（日）

「花と蝶」を描く画家として知られる鷹山宇一。本展覧会は、鷹山宇一の作品に登場する蝶に焦点を当て、絵画と蝶の標本を併せて展示することで、鷹山作品に描かれる蝶を検証する、美術と昆虫がコラボした画期的な展覧会です。

第18回鷹山賞児童作品展

第18回地球環境世界児童

画コンテスト優秀作品展

11/11（日）～1/20（日）

青森県内の小中学校児童生徒に作品を公募する「鷹山賞児童作品展」は、画家鷹山宇一の画業を顕彰するとともに、将来を担う子どもたちが絵画制作を通して、豊かな感性と、自由な創造の喜びを味わってもらえたらと願っているものです。本展では、入賞・入選に選ばれた作品を展示すると共に、併せて、一般財団法人日本品質保証機構、国際認証機関ネットワークが主催する「地球環境世界児童画コンテ

スト優秀作品展」から世界各国の子どもたちの作品を紹介します。

第78回国際写真サロン展

2019年

2/17（日）～3/17（日）

全日本写真連盟が主催する「国際写真サロン展」から入賞作品130点を紹介します。画像加工を駆使し独創性と芸術性に富んだ写真表現をご堪能いただける展覧会です。

本年度もありがとうございました！

平成29年度を振り返って



本年度ももうすぐ終了。春の「ルドルーテのバラ展」、夏の「矢口高雄の世界展」、秋の「渡辺貞一展」、そして「鷹山賞児童作品展」、さらに「二科青森支部60周年記念展」、「第77回国際写真サロン展」と、今年度も最後まで盛りだくさんの一年でした。展覧会ごとに新たな出会いが生まれ、本当に美術館はお客様を始め、美術館に関わるたくさんの「人」に支えられてきているのだなと実感します。美術館だけではありません。時には展覧会の準備に追われて目が回りそうになることもあります。お客様が「いい展覧会だった」の一言で、大変だったことがどこかへ飛んで行ってしまつから不思議です。私自身もたくさんの「人」に助けられているのだなと感じています。

来年度もまた、皆さんに喜んでいただけるような展覧会を目指して頑張りますので、今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

学芸員 遠藤未奈子

平成29年度  
鷹山宇一記念美術館  
「美術館あーとくらぶ」  
(1月・2月講座)  
会場：2階工房

「美術館あーとくらぶ」では、1月に「スイーツデコレーション」でマグネットを作ろう、2月に「七宝焼き」でアクセサリを作ろうを開催しました。教室の様子をご紹介します。



☆☆スイーツデコレーションで  
マグネットを作ろう☆☆

1月13日(土)は、「スイーツデコレーション」でマグネットを作ろうです。



スイーツデコレーションとは樹脂粘土を使い、まるで本物のように仕上げるものです。今回は、以前タミヤ展で好評だったホットケーキと新たにカップケーキに挑戦しました。上にのせるイチゴももちろん粘土で作りました。この教室は「お



もてなしワークショップ」に参加した方から、教室内に置いてあるホットケーキのスイーツデコレーションを作ってみたくてという意見をたくさん受けて開催いたしました。



まず土台となる生地は、色を練り込んだ粘土で作ります。その後のホイップやフルーツをデコレーションする作業が醍醐味。普段目にするケーキをイメージしながらホイップを絞ってシロップを垂ら

したら完成です。シロップの絞りを何度も練習し慎重にデコレーションしていました。すごくおいしそうなスイーツデコレーションに笑顔があふれました。



☆☆七宝焼きで  
アクセサリを作ろう☆☆

2月24日(土)は、「七宝焼き」でアクセサリを作ろうです。



七宝焼きとは、銅版に釉薬と言われる色ガラスの粉を乗せ、800℃前後の温度で焼成することで溶けた釉薬を焼き付けてできる、美しい装飾品のことです。今回は、フリ



ットという粒状のガラスを使い、作品を仕上げました。どんな色を使うか、フリットをどのように乗せるか考えて、慎重に釉薬を銅版に乗せていきます。その上にフリットを

乗せたら焼成です。どんな風に焼きあがるか気になる様子。窯の前に集まっては窓から焼成状態を覗いて、会話が盛り上がり。窯から作品を取り出し、熱が取れてくると横様がくつきりと浮かび上がってきます。



仕上げた作品を見せ合い、また挑戦したいとの声が多く聞かれました。来年も今頃開催する予定です。皆さんと再会できることを心待ちにしております。楽しいひと時をありがとうございました。



■3月ワークショップのご案内■

平成29年度最後のワークショップです。お申込みお待ちしております。

【デコパージュをしよう】

3月24日(土)

バッグやポーチをデコパージュしよう。



時間/10時~12時 材料費/500円  
対象年齢/小学生~一般 定員/15名

平成29年度も終わりを迎えようとしています。

今年度の美術館あーとくらぶを振り返り、また、参加された方のご意見を聞いて、自分自身も成長することのできた意味のある年になったと改めて感じています。平成30年度もどうぞよろしくお願いたします。  
(教育普及担当 織川 孝子)



# 美術館日誌

## ◆1月◆

- ▼1日(月) 2日(火) 年始休館
- ▼13日(土) ワークショップ 「スイーツデコレーション」
- ▼14日(日) 七彩会
- ▼20日(土) 県総合社会教育センター 鷹山賞児童画作品展最終日
- ▼21日(日) 鷹山賞児童画作品展最終日
- ▼22日(月) 展示替え休館
- ▼24日(水) アートプロジェクト会議 (遠藤/役場分庁舎)
- ▼25日(木) 31日(水) 臨時休館(煙蒸作業)

## ◆2月◆

- ▼1日(木) 絵馬懇談会
- ▼2日(金) 二科会青森支部作品搬入
- ▼6日(火) 自動ドア定期点検 (ナブコシステム)
- ▼7日(水) ピアノ搬入
- ▼8日(木) 二科青森支部60周年記念展 展示作業
- ▼10日(土) 二科青森支部60周年記念展初日 友の会新年会(杉屋敷奥山) アートプロジェクト 「しちのへ」思ひで写真館 (遠藤/七戸・中村旅館)
- ▼11日(日) 七彩会
- ▼15日(木) 三仙台支局出張(館長)
- ▼17日(土) 西村由紀江ピアノコンサート 理事会
- ▼18日(日) 青森県私立学校審議会 (館長/青森)
- ▼23日(金) 28日(水) インターンシップ実習受入 東北女子短期大学 榎林 真美さん
- ▼24日(土) ワークショップ 「七宝焼き」 (遠藤・デリー東北田名部氏)
- ▼28日(水) 三館連携打合せ
- ▼2日(金) 三館連携打合せ (遠藤/寺山修司記念館・広瀬)
- ▼8日(木) 松本零土展関連出張 (館長/青森・遊戯業組合)
- ▼10日(土) 理事会
- ▼13日(火) 16日(金) 展示替休館 絵画室1・2壁撤去 朝日新聞青森総局出張 (館長/青森)
- ▼17日(土) 第七十七回国際写真サロン展初日
- ▼18日(日) 三館連携バスツアー
- ▼21日(水) 七彩会
- ▼24日(土) 三館連携バスツアー 午前/ワークショップ 「デコパージュ」 午後/評議員会

## ◆3月◆

- ▼2日(金) 三館連携打合せ (遠藤/寺山修司記念館・広瀬)
- ▼8日(木) 松本零土展関連出張 (館長/青森・遊戯業組合)
- ▼10日(土) 理事会
- ▼13日(火) 16日(金) 展示替休館 絵画室1・2壁撤去 朝日新聞青森総局出張 (館長/青森)
- ▼17日(土) 第七十七回国際写真サロン展初日
- ▼18日(日) 三館連携バスツアー
- ▼21日(水) 七彩会
- ▼24日(土) 三館連携バスツアー 午前/ワークショップ 「デコパージュ」 午後/評議員会



▲東郷青児「帽子」  
©Sompō Museum of Art, 2018

二科青森支部60周年記念展  
展示作品

## 西村由紀江ピアノコンサート



▲コンサート終了後のサイン&握手会  
笑顔で応じる西村由紀江さん



ピアノ演奏を聴きながら、鷹山先生の絵画を鑑賞  
これ以上ない、贅沢で素敵な空間に包まれた、スペイン館でのコンサート!!



美術館には早くも春到来?! 三年生のシクラメンと新入生のサクラです  
三年目のシクラメンは、今年もキレイな花を咲かせてくれました



▲受付業務を体験中の実習生  
東北女子短期大学一年  
榎林 真美さん

# 「鷹山宇一の描いた蝶の数」

鷹山宇一記念美術館 研究員 對馬 康夫  
(日本鱗翅学会会員)

“花と蝶”の作家鷹山宇一（以下「宇一」と敬称を略）は1935（昭和30）年から1960（昭和35）年代にかけて「遊蝶花」シリーズで花とともに多くの蝶を描きました。それでは改めて宇一は生涯にわたって蝶を描いた作品を何点制作したのでしょうか。そして描かれた蝶はどれ位の数になるのでしょうか。画集「鷹山宇一の世界」（2014）、「鷹山宇一素描集」（1999）をもとに調べてみました。蝶が描かれた作品は208点で、その内訳は油彩200点、コンテ・クレヨン・パステル・水彩による素描8点でした。油彩の作品数は、1947（昭和22）年の初作「少年の日の佛陀」から絶筆となった1998（平成10）年の「郷愁都市」までの51年間に年4点のペースで制作されたことになりま。宇一は「花の絵に就いて」（画集p59）で、大作小品の区別なく一枚の作品が出来上がる迄数ヶ月、物によっては年以上もかかる」と述べており、油彩200点は妥当な作品数かと思われま。作品に描かれた蝶の数は、最も多い作品で「たそがれの歌」（1947）



山のかなたに  
油彩 1948年

の45頭、20頭以上の作品は「古城幻影」（1997）の23頭、「遊蝶・花」（1960年代）の20頭ですが、小品大作家にかかわらずその他の205作品に描かれた蝶の数はどのようなものなんでしょうか。表に蝶の数と作品数、代表的作品名を示しました。「追憶」（1950）など3頭の蝶が描かれた作品が36点と最も多く、次いで「トルソ」（1954）など7頭が29点でした。興味深いことに4頭、9頭の作品は、その前後（3、5頭と8、10頭）が二桁を越える作品数ですが、僅かに1作品のみでした。これは偶然なのかそれとも作家の意図によるものなのでしょうか。意図したとすれば、単純に数字の4は死に、9は苦に通じるので敬遠さ

れたのでしようか。宇一は「花の絵に就いて」（前出）で、花を描く際に「花と胡蝶」を組み合わせて作品自体の美しさに持っていき、最後に胡蝶をあしらうという描き方をする、というように作品の構図上4頭、9頭の蝶ではバランスが悪くなると考えたのでしようか。今となっては知る由もありませんが宇一の蝶の数の謎といえるものです。4頭が描かれたのは「山のかなたに」（1948）（写真）ですが、9頭の「遊蝶・花」（1958）はモノクロ図版ですの

で再検討が要されます。表に示した蝶の数に作品数を掛け積算すると蝶の総数が分かります。宇一が生涯にわたって描いた蝶の数は7378頭に上ります。実はこの数の蝶をイメージするにうってつけの蝶の標本が当館に在ります。2012（平成25）年に三沢市在住の蝶愛好家赤司一路氏が収集した蝶の標本が当館に寄贈されています。大型標本箱46箱に、420頭の蝶の標本が収蔵されています。不思議なことに赤司氏が生涯をかけて収集した蝶の標本数と宇一が描いた蝶の数が約1400頭前後とほぼ一致するので。ただ宇一が描いた蝶は9割方日本産ですが赤司氏の標本は逆に9割方外国産という違いがあります。是非とも来館されて赤司コレクショ

ンを鑑賞して蝶の数を実感していただきたいと思ひます。さて当館では今年の9月、宇一が描いた蝶を実物の標本に置き換えて展示する試み（仮称）「鷹山宇一の作品と蝶」展を企画準備中です。前号で示した「少年の日の佛陀」のように作品に描かれた蝶の位置に標本を置いて再現する展示と判別できた蝶全種の標本を展示しようとするものです。宇一の描いた蝶のうち判別できた種類と数は、アゲハチョウ科17種86頭、タテハチョウ科33種162頭、シロチョウ科11種90頭、シジミチョウ科14種64頭で、合計75種102頭でした。次回は宇一が好んで描いた蝶を紹介したいと思ひます。（注）蝶は1頭、2頭と数えます。

蝶の数 (頭)	作品数 (点)	代表的作品		
		作品名	制作年代	備考
1	17	「荒野の歌」	(1950)	第35回二科会員努力賞
2	20	「牧歌」	(1958)	
3	36	「海と貝殻」	(1966)	第51回二科東郷青児賞
4	1	「山のかなたに」	(1948)	
5	27	「陽炎の季節」	(1996)	
6	11	「早春賦」	(1990)	
7	29	「高原・湖」	(1967)	第52回二科総理大臣賞
8	16	「森と花」	(1966)	第51回二科東郷青児賞
9	1	「遊蝶・花」	(1958)	
10	16	「湖畔の花」	(1992)	
11	8	「海の誕生」	(1973)	
12	7	「港の花」	(1980)	
13	4	「山脈と花」	(1980年代)	
14	1	「遊蝶・花」	(1960)	デッサン
15	4	「遊蝶・花」	(1960前後)	
16	2	「海濱の花」	(1980)	
17	1	「遊蝶・花」	(1962)	
18	3	「少年の日の佛陀」	(1947)	
19	1	「花・蝶」	(1954)	
20	1	「遊蝶・花」	(1960年代)	
23	1	「古城幻影」	(1997)	
45	1	「たそがれの歌」	(1947)	

